

# 感染症分野

## 研究領域

### 「開発途上国のニーズを踏まえた感染症対策研究」

採択年度	2023年	研究期間	5年間
研究課題名	ワンヘルス・教育・官民連携による顧みられない人獣共通感染症介入の共同デザインに関する研究開発		貢献する主なSDGs  
研究代表機関	酪農学園大学		
相手国	タンザニア連合共和国	主要相手国研究機関	ソコイネ農業大学/タンザニア国立医学研究所/ムヒンビリ保健・関連科学大学
研究課題の概要			
<p>ブルセラ病と人獣共通結核は世界に広く分布する人獣共通感染症です。人は乳製品の喫食や動物との接触により感染します。家畜には流産や乳量減少などをもたらし、経済被害が発生します。発展途上国では、予算とセクター間連携が不十分であり制御できていません。本研究では、タンザニアの関係者が集まり、感染症の伝播と人の経済活動を定量化したシステムダイナミクスモデルを構築します。仮想空間でのシミュレーションから疾病制御に至るレバレッジ・ポイント（てこの支点）を見つけます。デジタル技術でそのポイントに関する教材を作成し、ナッジを取り入れたコミュニティ教育と官民連携推進により行動変容を起こし、人の感染を低減させます。</p>			